

4つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております



小手澤の森
第1・3日曜日



知足の森
第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp



No.643-644

イベント盛りだくさんの11月、積み木、木工体験を実施

【定例活動報告】 11月のイベント報告

11月頭の東京学芸大学の学祭である小金井祭に大学生の団体である木育研究所との出展（先月号で報告済）から始まり、狛江市環境イベント「こまエコまつり」、「やまと産業フェア（大和商工会議所、積水ハウスさんへの積み木レンタル）」、小金井市環境イベント「こがねい環境フォーラム」、「東海大高輪台高校SSH実習」、「小金井四小放課後木工教室」、月末にはFMさがみへの出演などほぼ毎週末に何かしらのイベントに出展、参加しました。いずれも本会に参加する中高生が活動の主体になり、チームごとに準備を進め、当日を迎えました。特にこがねい環境フォーラムでは、ピタゴラスイッチ風（著作権に配慮）のゲームである「ビー玉森助間伐大冒

緑のダム北相模は相模原
市内で活動する森林ボラ
ンティアです。急がず、無
理せず、楽しく、休ま
ず、ボチボチと・・・



険」を出展し、多くの小学生に森の勉強をしてもらいつつ、やはり、ビー玉が転がっていく様子に大興奮でした。さらに各イベント共通のレーザー彫刻体験も常に多くの参加者が作成、お持ち帰りいただけました。各イベントの写真は4ページ目に掲載しますのでぜひそちらもご覧ください。

宮村 連理（本会、副理事長）

【定例活動報告】 知足の森

本日は初めて自然の中で行う木の間伐や伐採のボランティアに参加させていただきました。

山に登って行う作業は思っていた以上に体力を使い、最初は足場の不安定さや高い場所での作業がとても怖かったです。しかし仲間や関係者の方々と声を掛け合ったり協力して一つの作業を行っていくうち次第に緊張や恐怖も薄れて作業に楽しく、集中して行えるようになりました。切った木を仲間と共に倒す瞬間はとても達成感があり気持ちよかったです。自然の中で汗を流すことで普段の生活では味わうことのできない充実感を得られました。

また、共に作業をした仲間の子たちと仲を深めることもでき、人とのつながりの大切さも感じられました。今回の体験を通して自然への感謝、尊さや協力することの大切さを改めて学びました。今後とも宜しくお願いします。

佐藤 鈴（中央大学附属中学校 1年女子）

日本の国土に占める森林の割合は67%で、これはOECD加盟国の中で3番目であるという。高校生までは林間学校などがあり、森に入ることがあったが、大学生になって、山に行く機会はめっきり減ってしまった。ましてや森を保全する作業に関わることなど全くなかった。だからこそ、森で木を切るという経験は印象深いものになった。

森に生えすぎた木を切り、適度な密度に保つ間伐は健全な森を育てるために重要なことだと言われる。だが、実際に伐採作業をしてみると、木を切るのとは簡単なことではないと分かった。切る木を決め、倒す方向を見定め、その方向に受け口を、反対側に追い口を作る。追い口にくさびを入れて木を倒す。一口に木を切ると言っても、幾つもの過程を経ていることを知った。チェーンソーを使う様子を初めて見た。耳を塞ぎたくなるような音ではあるものの、豪快に刃が入っていくのは手でのこぎりで切るよりも爽快だった。日本の森を守っていくための活動の一端を目の当たりにできて良かった。また機会があれば参加してみたい。

青野心平 筑波大学理工学群物理学類3年





桜井尚武の 森のコラム

「モミ (*Abies firma*) と ウラジロモミ (*Abies homolepis*) その1」

図1 モミの樹形

20221225

昭和記念公園西立川



図2 モミの毛のある若い枝

20230203

つくば実験植物園



図3 ウラジロモミの無毛で筋のある若い枝

20220310 汐入公園南千住



図4 クリスマスツリー販売店の展示場

20121209 コネチカットUSA

モミもウラジロモミもマツ科の大高木で、共に樹高が40m以上、直径は2m以上になります。葉は常緑で硬い線形、先端が二つに分かれてモミの先端は鋭く尖り触れれば痛いですがウラジロモミの先端はそれほど鋭くは尖らず凹頭又は円頭の場合もあります。ウラジロモミは名の通り針葉の裏側が白く目立ちます。両種とも真っ直ぐに直立する主軸（主幹）とやや上向きの水平に大きく広げる枝を樹頂から下部にかけて三角形に展開する特徴ある樹形を呈します（図1）。

モミの分布は暖帯から温帯下部で秋田県以南の本州、四国、九州（屋久島まで）、ウラジロモミは温帯上部で本州（栃木県那須山地から紀伊半島）、四国とされています。本州中央部の山々での垂直分布域はモミは低地から標高1,000m位まで、ウラジロモミは800m～1,600m位までで800m～1,000mは両種が共にみられる推移帯だったように思います。

ウラジロモミの分布域は標高の高い寒冷地で「緑のダム北相模」の活動地には自生せず、あるのはモミです。けれども、最近はウラジロモミが首都圏の公園や庭木、時に並木等でもよくみられます。

モミとウラジロモミの違いは枝を手にとれる場合は簡単に見分けられます。両種の若い枝先（今年伸びた枝、当年枝がいい）を見比べると、モミは軸が丸く平滑で短い毛があり（図2）、ウラジロモミは毛がなく葉の付いた部分を分けるように走る明瞭な溝状の筋があります（図3）。簡単に見分けられてしかも分布域が明瞭に違うのにモミとウラジロモミは造園の分野では区別されていないようです。これはウラジロモミの利用上の適応範囲が広くて扱いが簡便なためでしょう。

12月はクリスマスの時期でクリスマスツリーといえはモミの木と私たちは思いますが（日本人だけかも知れませんが）、アメリカでクリスマス準備の時期にツリーを売っている店を見学したら、モミ類はもとよりトウヒ類や、マツ類、ダグラスファー等ピラミッド型をしているものなら何でもOKという風に展示されていました（図4）。西欧でもモミの木には神性を感じているようですが、それでもモミのような木と似た木を大きくくり扱っているようです。私達ももっとおおらかに、モミのような木であればクリスマスツリーとして楽しんでいいのでしょう。

桜井 尚武（本会、会員）

【活動報告】 11月のイベントの様子をご紹介します



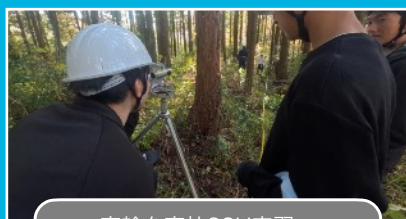
FMさがみで収録



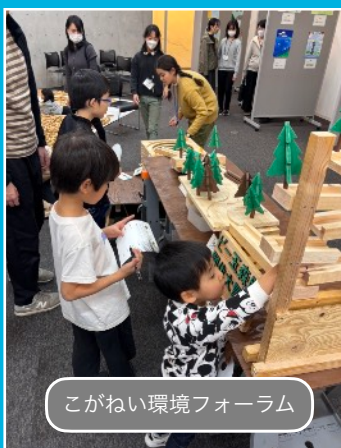
こまエコまつり木製賞状



こまエコまつり



高輪台高校SSH実習



こがねい環境フォーラム



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人

緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム

国土緑化推進機構・緑の募金

ChangeX（AWS助成）

協働団体：神奈川県、相模原市、小金井市、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構



緑の募金



一般財団法人
セブン-イレブン
記念財団



SEKISUI HOUSE
MATCHING PROGRAM



Amazon
Community Collaborator